

まちづくり環境委員会 行政視察報告書

1 日程

令和5年8月7日（月）～8日（火）

※九州への台風接近により8月7日～9日の視察日程を2日間に短縮

2 視察先及び視察項目

	視察先	視察項目
1	有価物回収協業組合 石坂グループ (熊本県熊本市)	リサイクル事業について（有価物の再資源化への取り組み）
2	福岡県	大濠公園の整備について ・セントラルパーク基本計画 ・「P a r k - P F I 制度」、「設置管理許可制度」を活用した公園整備
3	熊本市 ※台風接近により視察中止	熊本市SDGs未来都市計画について ・脱炭素に向けた取り組み ・ライフライン強靱化プロジェクト

3 視察委員

- 委員長 馬 橋やすとき 自由民主党大田区議団・無所属の会
- 副委員長 松 本 洋 之 大田区議会公明党
- 委 員 押 見 隆 太 自由民主党大田区議団・無所属の会
- 柿 島 耕 平 自由民主党大田区議団・無所属の会
- 大 橋 たけし 大田区議会公明党
- 杉 山こういち 日本共産党大田区議団
- 宮 崎 かずま 日本維新の会大田区議団
- 須 藤 英 児 つばさ大田区議団
- とく山 れいこ 東京政策フォーラム（都民ファースト・国民民主・無所属の会）
- 小 川 あずさ 立憲民主党大田区議団

4 視察報告

項目ごとに各会派の視察報告を記載。

(1) 有価物回収協業組合石坂グループ（熊本県熊本市）

◆視察項目

リサイクル事業について（有価物の再資源化への取り組み）

(自由民主党大田区議団・無所属の会)

ペットボトルや缶・瓶、古紙などのリユース、リサイクルなど、有価物の再資源化事業について、熊本市で先鋭的に取り組んでこられた石坂グループ様を訪ねました。

施設内は整然と分けられ、搬入業者や持ち込みの市民などが頻繁に出入りするなど、非常に計算された動線構造になっていて驚きました。また、回収物の選別には光学選別プラスチック機材などの最新機器が導入され、時代の流れとともに技術革新を続けておられます。ここに人の手と目を加えることで、効率的かつ精緻な資源回収が行われており、無駄を排したスマートな仕組みとなっていたことにも驚かされました。



リサイクルのみならず、リユースできるものは市民向けに販売したりと、有価物の再資源化にとって一番大切な「市民との意識共有」という原点にも目を向け、積極的に取り組んでおられる姿勢に敬服しました。

「有価物の再資源化について、環境負荷軽減の観点と企業や自治体としてのコスト管理の考え方のバランスが非常に難しいと考えるが、これまでどのように捉えて推進してこられたのか。」という質問に対して、「45市町村で分別の基準が違う。回収コストを考慮した上で、熊本市と水俣市においては紙資源は段ボールも含めた複合回収とするなど、スケールメリットなども含めて計算して設計している。」とご回答いただきました。

また、「熊本市及び日本全体として考える有価物の再資源化の課題と展望について、最前線でご活躍をされている御社のお考えをお聞かせ願いたい。」という質問に対し、「一手間かければ資源になる、という微妙なラインの資源が多数ある。その手間を社会で分散していくことが重要で、いかに市民に現状の課題を共有していくのか、このことが最大のテーマである。」という最大のテーマをご教示いただきました。

大田区としても、参考とするべき技術、方針が多く詰まった有益な視察先と考えます。

(大田区議会公明党)

有価物回収協業組合石坂グループは、1980年8月より熊本市委託事業を受託し、リサイクル事業に取り組んでおり、リサイクル事業及び廃棄物処理事業を通して、循環型社会構築へ貢献、環境と地域の調和を目指して事業を行っている。

熊本県を中心に九州各自治体からの独自ルートと、様々な企業より排出される事業系のルートから原料調達を行い、ガラスびん・ペットボトルの原料の再生処理や、飲料用容器等のリターナブル瓶も取り扱っており、容器のリサイクルを行っている。

その他、様々な企業で排出される廃木材や未利用木材を回収・加工、各種金属のリサイクル、古紙のリサイクルなど、廃棄物の適正処理を、徹底してリサイクル率にこだわり、廃棄物処理事業を行っている。また、「リサイクル品展示場」を本社工場内に構え、事務機器・家具・家電品・厨房類・機器類など中古品の販売を行い、リユースの促進に取り組んでいる。



所有車両も 100 台を超え、独自の整備工場を完備、専門のスタッフにより車両の点検・補修も自社にて実施し、常に万全の体制で業務を行っている。

さらには、ベルトコンベアを流れるペットボトルをカメラやセンサーでとらえ、ラベルの有無や色を AI が瞬時に判別、ロボットアームが最適な選別ラインに振りわけるユニット式のロボットも導入するなど最新の技術を導入し、労働環境の改善により若い世代の人たちが地元で活躍できる職場をつくりたいという想いが感じられる。

熊本市は、本区とほぼ同じくらいの人口であるが、7年後には、石坂グループともう1社の事業者と組んで清掃工場を建設する予定であるとのことで、驚きを隠せなかった。

今回の視察は、令和7年度までにプラ回収を区内全域に拡大する本区にとって有意義な視察であった。

(日本共産党大田区議団)

石坂グループではReduce(リデュース)抑制・物を大切に使いゴミを減らす。Reuse(リユース)再使用・使えるものは繰り返し使う。Recycle(リサイクル)再利用・資源として再び利用する。の3Rを積極的に推進する事業活動を行っています。



飲料用容器等のリターナブル瓶(ビール瓶・一升瓶)、ガラス瓶の再生原料化、ペットボトル再商品化、ペットボトルをフレーク化し原料として使う、また、様々な企業で排出される廃木材や未利用木材を回収し、ウッドチップに加工を行い、加工品の原料や燃料化、古紙のリサイクル、廃棄物の排出を抑制することを最優先としつつ、不適正処理の防止・その他の環境への負荷の低減に配慮し再使用、再生利用、熱回収の順にできる限り循環的な利用を行っている。

更に、「リサイクル品展示場」を本社工場内に構え、事務機器・家具・家電品・厨

房類・機器類など中古品の販売を行い、リユースの促進に取り組んでいます。

あらゆるものを取り扱っており、その、搬入された有価物の用途に合わせた選別作業に力を入れています。例えば、ペットボトルの包装ラベルの未剥がしをAIロボットが撤去することで省力化をしている。大田区でもデジタル技術の応用も今後の課題である。

経済状況により、ごみを3Rとして利活用する相手先の受け入れる状況が変化すれば経営破綻の危惧も生まれます。安定した、ごみ処理について行政が関わり生活や経済の好循環を生む取り組みが重要です。

今後、大田区の清掃工場を視察し、石坂グループの現状と比較して課題を抽出し、改善していくことが求められます。

(日本維新の会大田区議団)

視察前半は工場見学。後半はグループ本部長・石坂様にお話を伺った。

本工場は1日平均30トンもの有価物が搬入される大規模工場である一方で、リサイクル率95%以上を誇る先端的工場である。ここで着目すべきは『95%以上』という数値である。なぜなら、一般家庭からも搬入されるゆえ、分別されていない非有価物が多く混ざっている中で、高リサイクル率を誇っているからである。この秘訣はAIによる自動的な非有価物の検知・除去にある。ここで、住民生活からは毎日不可避免的に有価物が発生すること、および同事業者は自治体と随意契約していることを鑑みれば、同事業所における『安定性』と『継続性』は極めて重要な点である。



そのためにも、同事業所をはじめとするリサイクル工場といった下流における技術刷新も重要なことながら、各家庭という上流での分別も、同事業所の負担を減らし『安定性』と『継続性』を維持する上で極めて大切である。分別が不十分な場合、下流の事業者には負担がまわり、結果的に自治体での安定的な資源回収が危ぶまれる他、回収コストの上昇にも繋がりがかねない。こうした観点から、普段から住民への分別の啓発活動は重要であると感じた。

大田区ではゴミ分別アプリや区設掲示板での分別の啓発活動が行われており、区内での現行体制に大きな問題があるとは考えない。一方で、今後は区外からの移住者や外国人にも啓発周知する必要がある。

(つばさ大田区議団)

◇工場見学概要

- 広い敷地には、素材別に回収エリアが用意されている。
- 棚やロッカーなどオフィス用品やタンスなどの家具、カッターナイフやドライバーなどの工具、ボールペンなどの文具は、リサイクル商品として工場内で販売。

- 日本酒の一升瓶はそのまま再利用、または細かく砕き、色別に分けてガラス素材として再利用。
- 紙ごみは、質量や破片の大きさの違いにより分別。
- プラスチック類ごみは、手作業やA I で分別、水に浮く・沈むなど比重を利用した分別、光学的な分別もある。
- 金属ごみは、まず磁石を使い鉄と非鉄金属を分別、非鉄金属は、さらに分別。



◇大田区にどう生かすか

- ◎熊本市の人口は大田区とほぼ同じの73万人余、熊本市の有価物回収・分別と処理についての多くは、大田区に置き換えて考える事が出来る。
- ◎平成28年の熊本地震時の災害ごみに対応した経験、令和2年7月豪雨による人吉市での水災害ごみに対応した経験からの教訓は、家庭ごみ同様、災害ごみも分別すれば、原料として再利用できる事である。平時から分別する事の重要性を区民へ周知徹底し、災害発生時も平時同様に分別回収できる体制を備えておく。
- ◎災害時、発生するごみの量は、平時の倍から数倍も発生する。効率よく分別するためには、災害ごみの仮置き場の候補地を複数確保しておく。

(東京政策フォーラム(都民ファースト・国民民主・無所属の会))

熊本県熊本市にあります有価物回収協業組合石坂グループへ視察させていただきました。

大規模なリサイクル事業を行っており、ペットボトル・廃木材・新聞雑誌・段ボール、ビン・缶などを取り扱っています。リサイクルショップも運営しており、古物商許可証を取得されているため、まだ利用できそうなものは、簡単な修理をして販売を



されていました。インターネットのオークションサイトでの販売価格を参考にされており、相場を把握された上で価格設定をされていたのが非常に良心的と感じました。また、定期的に感謝祭を行うことで地域住民の皆様への理解促進を促していらしたのが印象的でした。

九州管内の自治体では、自治体ごとに分別ルールが異なり、また、入札金額も異なるため、熊本市の資源回収に係る費用よりも水俣市の資源回収に係る費用の方が大きいとのことでした。また、道路上で分別していると交通渋滞を起こすため、すべてまとめて資源回収を行い、新聞雑誌・段ボール等を機械で選別したのち、最終的には人の手で選別作業をされていました。熊本市内の労働力の獲得に苦慮されておりましたが、選別ラインの下にストックヤードを配置するなど敷地内のいたるところで、非常に効率的なつくりとなっており、最小限の人員配置で作業できる工夫をされていました。資源ごみは、正しい分別方法でゴミ出しするか否かで、再生可能かどうかが変わります。リサイクル率向上の観点からも、利用者様、つまり、区

民の皆様へより啓発活動の必要性を感じました。

2018年に北海道でスプレー缶爆発事故が起きましたが、今後、より一層深刻化する高齢化社会では、同様の事故は増えうる事故として想定し、適切な防止対策の検討が必要と考えます。当区としても安全に配慮する取り組みや設備投資の検討を考慮すべきであると考えました。

(立憲民主党大田区議団)

今年の夏もこれでもかとばかりに毎日暑い日が続き、地球の温暖化が加速しているのではないかと、感じてしまう昨今ですが、少しでも地球に優しく生きていくために、これからもリサイクル事業は非常に大事な要因です。

今後も、一人ひとりがリサイクルへの意識を高めて毎日を送るために、行政の担うべきリサイクルの取組みを、今回はまちづくり環境委員会で、熊本市の有価物回収協業組合石坂グループの施設を見せていただきに伺いました。

熊本市の人口は、73万人余りと大田区とほとんど同じのため、リサイクル物の量は同じくらいなのかと思われそうですが、施設でうず高く積まれた古紙やプラスチックなどを目の当たりにして、その量の多さに改めて驚きました。

リサイクル事業については、古紙、金属、新燃料、樹脂と細かく分かれ、各所で機械化が進んでいました。

1番凄いなと思ったのは、ペットボトル再生で、ロボットがあつという間にプラの仕分けをしているところでしたが、やはりそこにも人の力がいらぬわけではなく、最終チェックは人の目が必要と、二人のチェッカーがひっきりなしに手を動かしていました。

ほかにも、たくさんの資源を運び込んだり動かしたり、大きな施設の中のあちこちに、大汗をかいて一生懸命働く方々を見かけました。

廃棄物のリサイクルを市民にも啓発しながら多品目で行い、いかに低コストで安全に行うかを民間の力を借りながら進めていることがよく分かりましたし、同じ人口規模の自治体として、見学させていただき、勉強になりました。



(2) 福岡県

◆視察項目

大濠公園の整備について

- ・セントラルパーク基本計画
- ・「P a r k - P F I 制度」、「設置管理許可制度」を活用した公園整備

(自由民主党大田区議団・無所属の会)

福岡県福岡市、大濠公園の視察を行った。大濠公園と舞鶴公園の一体的な活用を図り、県民・市民の憩いの場として、また、歴史、芸術文化、観光の発信拠点として、公園そのものが広大なミュージアム空間となるような公園づくりを進めるための構想である「セントラルパーク構想」の具体化を図るために、「セントラルパーク基本計画」が策定された。



大濠公園は福岡県の管理、隣接する舞鶴公園は福岡市の管理と分かれているのだが、これらの公園の一体化を図り、両公園の魅力・特性を最大限に活かし、県民・市民、観光客の利活用を推進するのが計画の基本方針である。

そして、この計画を実現する為に、民間のアイデアやノウハウも活用できるように「P a r k - P F I 制度」と「設置管理許可制度」を用いた公園整備が進められている。公園内にあるスターバックスは2010年に「設置管理許可制度」を用いて、公園内で初めて民間の力を活用した施設となっている。その一方で、大濠テラスは公園内にある日本庭園の整備に伴い、「P a r k - P F I 制度」を用いて2020年に開業した。

「P a r k - P F I 制度」は2017年の都市公園法改正により新設された制度で、公園において飲食店・売店などを設置・運営する民間事業者を公募により選定する制度であり、事業者が設置する施設から得られる収益を公園整備に還元することを条件に、事業者には都市公園法の特例措置がインセンティブとして適用されるものである。「P a r k - P F I 制度」の活用により、公園管理者には財政負担の軽減やサービスレベルの向上、民間事業者には長期的視野での投資、経営が可能になり、公園利用者にとっては公園の利便性・快適性・安全性が高まるなどのメリットがある。大田区の都市公園においても、このような制度の活用も視野に入れた上で考えていく必要があると感じた。

(大田区議会公明党)

セントラルパーク基本計画は、福岡県、市総合計画の上位計画に基づき、公園・緑地、環境、文化財、芸術、観光などの関連計画と連携しながら、将来の実現すべき公園像に向かって、大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用の実現、都市の活性化につながる公園づくりを目指し、基本方針は両公園の魅力あふれる特性を最大限に活用し、



県民・市民、観光客による様々な利活用の推進を第一に捉えて、将来にわたって継続的に両公園を高めていく基本方針のもと取り組みが行われており、公園は広大な面積にジョギングできるよう綺麗に整備が行われ、都心部にありながら自然豊かで、多くの方がくつろぎ遊べる広い芝生、ベンチも多く、美術館や日本庭園など、歴史、文化芸術も感じとれるとても魅力あるソフトを支えるハードの整備が進められています。

また、行政主導の公園づくりを公園に関わる様々な人々と協働で魅力ある公園づくりを進め、今の季節では「ひまわり」を種まきから団体の方々に携わって頂くなど取り組みもされています。

P a r k－P F I活用は、公園管理者としてのメリットは、民間資金を活用することで、公園整備、管理の財政負担軽減が出来、民間事業者は規模の大きな施設が設置可能となり、長期的視野での投資・経営、緑豊かな空間を活用して、デザイン・整備が出来、収益向上、質の高い空間創出が出来ます。

公園利用者は、飲食施設、サービスの充実、老朽化や質の低下を更新して、公園の利便性、快適性、安全性が高まります。実際、大濠テラスは、木材を多く使用し窓も大きくデザインも空間も良く、八女茶をテーマに飲食が出来、多くのお客様がご利用されておりました。

また設置管理許可期間が特例により10年から20年に延長し、民間の参入促進、優良投資促進につなげており、とても参考になる取り組みを勉強させていただきました。

区民の皆様のより良い公園を目指して、この度の視察を活かして参りたいと思います。

(日本共産党大田区議団)

2014年(平成26年)6月、大濠公園と隣接する舞鶴公園との一体的な活用を図る「セントラルパーク構想」が県と福岡市の共同で取りまとめられ、その後、構想の実現に向けた「セントラルパーク基本計画」が2019年(令和元年)6月に策定されています。

大濠公園と舞鶴公園の特性を活かして、県民・市民、観光客の利活用を推進するとしています。

県営大濠公園、舞鶴公園は、福岡市中心部からのアクセスに恵まれ、国内外から年間100万人が訪れる福岡県の代表的な都市公園であり、休日平日を問わず、多くの県民が思い思いの活動を楽しむ憩いの場でもあります。また、アジアを中心とした海外からの旅行者も数多く訪れています。

大濠公園では、P a r k－P F I制度・設置管理許可制度を活用した公園整備として公募設置管理制度を導入し、許可期間を上限20年の範囲以内での設置管理許可を保証することで民間の参入促進、優良投資促進を図っています。

天神中央公園西中州エリア再整備事業・飲食施設2店舗及び、公園施設(休養施設、トイレ)を整備し、2019年8月9日から供用開始しています。また、大濠公園



では大濠テラスで、八女茶をテーマとした飲食施設及び公園施設（日本庭園剣舞所・案内サイン・園路など）を整備し2020年9月2日から供用開始しています。

民間活力を使い施設整備し公園管理・運営するのですが、民間は利益を出さなければ撤退します。設置してからの経済状況などで様変わりします。それでは、公園の運営管理はままなりません。安定的な公園管理をするのであれば、公共施設として行政が主体的に運営することが望まれます。

（日本維新の会大田区議団）

福岡県・福岡市の行政職員、大濠公園の管理者から話を伺った。

大濠公園とは、福岡城外濠を昭和2年の東亜勧業博覧会を機に造園工事を行い、昭和4年に開園した県営公園である。同公園は福岡市の都心部に位置し、総面積約39万8千平方メートルの全国屈指の水景公園である。



公園内には、約2キロメートルの周遊道、野鳥の森、児童遊園、能楽堂、日本庭園、浮見堂、ボートハウス、多彩な飲食店等が配置されており、様々な用途に利用されている。

大濠公園はPark-PFI制度が活用されている。同制度は、都市公園における公園施設の設置管理を行う民間事業者を公募により選定する制度であり、選定事業者は施設から得られる収益を公園整備に還元することを条件に、都市公園法の特例措置（EX. 設置管理許可期間の10年延長、建蔽率の10%緩和等）がインセンティブとして適用される。福岡県では、同制度内において独自の事業者選別評価基準を設けており、アジアの玄関口・福岡に適した事業者を選定した。

大濠公園においてPark-PFI制度を導入した結果、民間事業ノウハウの享受・賑わい創出・知名度アップといった成果があったと担当者が仰っていた。そこで入場者の増加といった定量的な評価について質問したが、現時点では定量的な効果測定は行っていないとのことだった。しかし、各種観光サイトやSNSでは、一定の評価・上位人気を得ていることから、今後の展望を注視すると共に、良い事例は、大田区・洗足池公園への導入も検討したいと考える。

（つばさ大田区議団）

◇公園概要

- 福岡市営地下鉄大濠公園駅から徒歩5分で到着。もともと沼地であった場所を福岡城の外堀として長年利用、整備して昭和4年に大濠公園として開園した。
- 冬季はシベリア地方から冬鳥が飛来、池には鯉や亀、花壇には春はチューリップ、夏はひまわりが咲き誇るなど、動植物も豊富である。公園内には福岡市美術館、日本庭園など様々な施設がある。



- 池の周囲の1周2kmのランニングコースは、距離表示が見やすく、爽やかな汗をかける。公園内のサインボードのデザインは統一されている。

◇セントラルパーク基本計画

- ①大濠公園と舞鶴公園を繋ぎ、魅力の向上と活性化
- ②ジョキングの聖地・都心部の生き物の大きな家
- ③アート巡りの拠点、数々のイベント開催の場
- ④古代からの歴史のつながり
- ⑤利用者に愛され、ボランティアが活躍できる場

- 「Park-PFI制度」・「設置管理許可制度」を活用した公園整備

- ①公募設置管理制度に基づき選定された者に対して、上限20年の範囲内で設置管理許可を保証し、民間の参入促進、優良投資を促進できる。
- ②財政負担軽減・サービスの向上。長期的視野での投資・経営が出来、収益も向上。公園の利便性、快適性、安全性が高まった。
- ③「Park-PFI制度を用いたことにより、民間業者が持つ様々なアイデアを得て、賑わいの創出・利便性や魅力度の向上、知名度や認知度を高めることが出来た。

◇大田区の公園にどう生かすか

大田区内の中小公園をまとめて規模を大きくする事で、利便性と魅力度を上げる。長期的視野での投資・経営が出来る体制をつくり、民間の様々なアイデアで賑わいを創出する。

(東京政策フォーラム(都民ファースト・国民民主・無所属の会))

福岡県福岡市中央区に位置します大濠公園について視察致しました。

大濠公園は県立公園ではありますが、隣接する舞鶴公園は市立公園であり、公園は隣接しているにもかかわらず、管理は福岡県と福岡市でそれぞれ担っており、ご利用者様にはわかりづらいものとなっていました。Park-PFI制度を利用したことで、管理者が異なることによる管理上での課題を解決。制度導入以前は、県管理下と市管理下で異なるサイン(標識)を使用していたため、これらを統一し、公園ご利用者様にわかりやすい公園利用方法を提示することが可能となったとのことでした。また、老朽化したベンチを改修し、より気軽にご利用しやすい環境を整備されました。今後、公園入口付近のアクセス性を向上させ、より人々が行き来しやすい回遊設計を導入予定とのこと、大濠公園・舞鶴公園双方の魅力を増やし、ご利用される方々の目線に立った環境整備に力を注がれていました。

また、大濠テラスでは、八女茶をテーマとした飲食店を出店されていました。八女茶選定理由は、近隣にある日本庭園や茶室との相性を考慮されたとのことでした。

大濠テラスが開業したのは、2020年のコロナ禍であり、当初は飲食店と着物レンタル店が入っていましたが、コロナ禍により、主なターゲット層



であった海外旅行者が激減し、着物レンタル店は撤退となったそうです。八女茶飲食店は、開業当初から好調な売り上げを出されており、ご利用される方からも、飲食店のさらなる増設のご希望があるとのことで、公園ご利用者様のニーズとして、多様かつ公園内に適切に配置された飲食店需要があることがうかがえます。

今後、公園整備または再整備する際、公園内における飲食店設置は、重要検討課題ではないかと考えました。

(立憲民主党大田区議団)

大田区では区民から愛されるたくさんの公園がありますが、さらに羽田空港跡地を利用した新たな公園の計画も進められようとしています。

これからの開発の参考にすることも含めて、実際のPark-PFI制度、設置管理許可制度を活用した公園整備を、福岡県大濠公園で見せていただきました。

地下鉄を降りて、公園池に浮かぶ3つの島、柳島、松島、菖蒲島を実際に全員で景色を楽しみながら歩きました。

朝から酷暑でしたが、水辺の散歩は気持ちよくそれほど距離を感じず、2020年に開業した大濠テラスに到着しました。あとで地図を見たら、かなりの距離ですが、景色がよくて時間を感じませんでした。

大濠テラスに到着すると、午前でしたが、すでにお客さんが1階で寛ぐ姿が見られました。私たちは2階で職員の方々から、セントラルパーク基本計画について、公園を見渡しながら、民間の力を利用するメリットの説明を受けました。

平成29年の都市公園法改正で、設置管理許可が10年から20年に延びて民間が参入しやすくなったとのことでした。民間にとっても、長期的に投資と経営ができるメリットがあり、民間参入で結果的には公園利用者が質の高いサービスを受けられ、公園を快適に安全に利用できることで、利用者も増えリピーターも増えていくことにつながります。

実際に説明を受けたあと、1階に降りるとランチタイムで飲食席は満席で賑わっていました。八女茶や珍しい形のいなり寿司など、地域の名産が充実していて、ここで買い求めることができます。

大田区でも観光客はもちろんですが、何より区民から愛され続ける公園にしていくため、区民の意見、民間の知恵を借りながら、羽田跡地の公園の開発や既存の公園の改革をしていく必要があると感じました。

